

大地の恵みを全身で感じて!

田舎暮らし体験ツアー【秋編】

10月17日・18日の2日間、田舎暮らし体験ツアー【秋編】を開催し、東京都や仙台市などから5家族16人の皆さんが参加しました。

5月の春編では、田植えや里芋の植え付けを体験した参加者たち。泥んこになって植えた苗が黄金色に輝く稲穂へと変わった光景を見て、「実りの秋を楽しみにしてました」と皆さん笑顔。早速、稲刈りを体験しました。

2日目には里芋の収穫を体験し、お昼は取れたての里芋を使った芋煮を堪能しました。天候にも恵まれ、参加者たちは白石の秋を全身で楽しんでいました。



▲作業の大変さも収穫の喜びの一つです

母から子へ…時代を超えて受け継がれる

第6回白石城下きものまつり



▲多くの子どもたちも、着物を着てひろばを訪れました

10月16日から18日の3日間、すまいるひろば周辺で第6回白石城下きものまつりが開催されました。期間中は、まるで大正時代にタイムスリップしたかのように、多くの皆さんが着物姿で会場を訪れました。恒例となった着物のファッションショーには、市内外から多くの皆さんが参加。18日には、仙南地区の高校写真部の生徒37人が撮影に訪れるなど、会場は大いに盛り上がりました。

子どもたちは、母親が小さい時に姉とおそろいで着た着物を着たり、曾祖母の着物を着たりと…時代を超えて伝えられる日本文化の良さを感じさせてくれました。

いざというときに備えて!

災害用伝言ダイヤル「171」体験会

10月18日、白石第二小学校駐車場に設置したテントで、災害用伝言ダイヤル「171」体験会を行いました。

同小学校体育館で、自主防災組織リーダー研修会を開催することに併せて行われた体験会には、いざというときに備えようと家族で体験に訪れ、実際に伝言の録音と再生を体験しました。

伝言ダイヤルは、全国50カ所ある蓄積装置に最大800万件の伝言を蓄積できます。毎月1日には録音などの体験ができますので、今回体験できなかった皆さんも、いざというときに備えて、ぜひ体験してみたいはいかがでしょうか?



▲「171」伝言ダイヤルを体験する親子連れ

彩り豊かな農業の祭典

第31回白石市農業祭



▲自然の恵みを前に子どもニコリ!

11月7日・8日の両日、ホワイトキューブで毎年恒例の農業祭を開催しました。今年で31回目を迎えた農業祭。会場には農家の皆さんが丹精込めて育てた、彩り豊かな実りがズラリ! 開場前から大勢の人が詰め掛け、2日間で約20,000人が訪れました。

「農林産物コンテスト」には昨年を大きく上回る約700点が出品されたほか、地元産の安全で安心できる農産物と、姉妹都市である北海道登別市と神奈川県海老名市のおいしい物産が大集合! 会場の至る所で「おいしい笑顔」が見られ、大いに盛り上がりました。

東北6県の強豪校が白石の地に集結!

第8回中学生軟式野球秋季白石大会

10月17日・18日の両日、第8回中学生軟式野球秋季白石大会が、益岡公園野球場など4会場を舞台に開催され、東北6県から15校が参加しました。各地区の新人大会で好成績を収めた強豪校ぞろいとなった今大会。本市からは、福岡中学校と東中学校が出場しました。

特に福岡中学校の野球部は、部員12人ながらも白石刈田地区の新人大会で準優勝を収め今大会に出場。予選リーグでは、優勝した秋田県の大湯中学校を相手に敗れたものの、部員全員が一丸となって白熱した試合を繰り広げていました。



▲開会式で選手宣誓をする福岡中学校の佐藤智輝主将

日ごろの音楽活動の成果を発表!

平成21年度白石市小・中学校音楽祭



▲福岡小学校の3年生53人によるカントリーロードの合奏

10月20日、ホワイトキューブコンサートホールを会場に、平成21年度白石市小・中学校音楽祭を開催しました。

今年の音楽祭には、市内の小学校9校と中学校5校から約520人の児童・生徒が参加。新型インフルエンザの影響で、残念ながら白石第一小学校と東中学校の2校が出場を取りやめましたが、参加したみんなが日ごろの音楽活動の成果を発揮しようと、心を込めて歌や演奏を発表しました。会場は、小学生の明るく元気な歌声と、中学生の小学生とは一味違った素晴らしい響きで包まれました。

一日も早く誘致企業の獲得を!

福岡深谷地区工業団地造成安全祈願祭

10月26日、白石インターチェンジと隣接する福岡深谷地区工業団地で、造成工事の安全を祈る祈願祭が開催されました。昨年開催した「わいわいトーク」の中でいただいたご意見をきっかけに、工業団地造成の計画が動きだし、この日の安全祈願祭となりました。

祈願祭には、風間市長をはじめ市議会議員、地元地権者など約50人が出席。2011年3月までの工事の安全を祈願しました。神事後の祝辞で風間市長は、「この団地の造成は、白石の産業発展の要になる」と語り、一日も早い誘致企業の獲得を目指します。



▲安全を祈願してクワ入れをする風間市長

人も味覚も秋の小原が満載!

第7回秋の検断屋敷まつり



▲つきたてのモチは大人気! 行列ができました

11月8日、小原地区の材木岩公園で第7回秋の検断屋敷まつりが開催され、約3,000人が足を運びました。

主催する「検断屋敷まつり実行委員会」のキャッチフレーズは、「みんなと仲良く笑顔で活性化」。この言葉の通り、おそろいのスタッフジャンパーを着た小原地区の皆さんは、笑顔で観光客を出迎えていました。

おまつりでは、小原南中ソーラン愛好会の皆さんなどによる踊りや、特産品のりんごの皮むき大会やつかみ取り大会、ウッドボウリング大会などのゲームイベントが行われ、秋晴れの下で笑顔がいっぱいになりました。